

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。 ②理念は地域密着型サービスの役割を反映させたものでひかりの里、独自の理念で作成されている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	①管理者は理念を全職員に周知し、共有するための取り組みを行っている。 ②職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	①事業所内に、利用者や家族等が見やすく分かりやすいように理念を掲示している。 ②理念をパンフレット等の利用案内時の説明文書や広報紙等に明示している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	①日頃から近隣の人達に気軽に立ち寄ってもらうよう働きかけをしている。 ②見学や認知症に関する相談、実習生、ボランティア等を受け入れたり、認知症の予防・事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。③地域の生きがい活動や地域の温泉、商店等の地域資源に関わりながら事業所を理解してもらおうとともに、交流を図るための働きかけを行っている。 ④外部の人を受け入れる際には利用者のプライバシーに十分配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	①管理者は評価のねらいや活用方法を全職員に周知する取り組みを行っている。 ②職員は、評価のねらいや活用方法を理解している。 ③自己評価は職員と一緒に取り組んでいる。 ④評価の結果を基に、検討し改善計画の策定、より良いサービスの取り組みにつなげていく。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①会議では、報告や情報交換を行うほかに、メンバーの意見を引き出し、今後の取り組みにつなげていく取り組みを行っている。 ②会議では自己評価や外部評価の結果を説明し公表している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①市長村へホームのパンフレットや広報誌等を配布している。 ②ホームの実態等を理解してもらう為に、自己評価や外部評価の結果を報告している。 ③必要に応じて、利用者の利便性の向上等、生活の質を高めるための課題解決に向けて、行政との連携を図っている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	①外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が権利擁護事業や成年後見制度について理解を深める取り組みを行っている。 ②管理者・職員は権利擁護事業・成年後見制度の概要について理解している。 ③必要に応じて、利用者や家族に事業についての情報提供や利用につなげる支援を行なっている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①外部や内部研修の実施等を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。 ②管理者は、職員の日々のケアの提供場면을観察する等、虐待を未然に防ぐよう務めている。 ③虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について、全職員が理解している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約時は、利用者や家族等に、事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。 ②契約時は、利用者や家族等の疑問や意見を引き出す働きかけを行っている。 ③契約を改訂する際には利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①運営者や管理者、職員は、利用者が意見や苦情を出しやすいよう働きかけを行っている。 ②意見等を上手に表すことができない利用者に対して利用者の言動から本人の不満や意見等を察するよう取り組んでいる。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①利用者の暮らしぶりについて定期的に報告している。 ②利用者の健康状態や受診状況等について定期的に報告している。 ③利用者の金銭管理の状況について出納帳等に記録し、領収書を添付して定期的に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①家族が意見や要望を出しやすい雰囲気作りをしている。 ②事業所内に苦情受付窓口をもうけ家族から出された意見や苦情を日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①事業所の運営方針や利用者の受入れ等の決定事項について、職員の意見を聞く機会を設けている。 ②職員から出された意見が反映される仕組みが整えられている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	①利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっている。 ②夜間にケアが必要な利用者に対応できる体制が整えられている。 ③職員の急な休み等には代わりの職員を確保する体制が整えられている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	①運営者や管理者、職員は、担当職員の交代による利用者への影響を理解しており、異動や配置換え等に配慮している。 ②担当職員の異動、配置換え等を行う際には、利用者に十分に説明している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を認識し、具体化するための方針を示している。 ②年間の研修計画を作成している。 ③職員は、個々の力量や経験に応じた研修を平均的に受講している。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①同業者との交流・連携を通じて、日々のサービスの向上や職員育成につなげるための取り組みを行っている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	①日常的に、あるいは面談等で、運営者や管理者が職員の悩みやストレスを聞いている。 ②運営者や管理者は、職員の悩みやストレスの背景を理解し解消につなげる取り組みを行っている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	①運営者は、現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況を把握している。 ②平成17年度に就業規則をもうけ、労働基準監督署に届けている。 ③運営者は職員のやりがいや向上心が持てる職場環境となるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	①サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けている。 ②利用を前提として話を進めるのではなく、まずは利用希望者の身体状況や思い、希望、ニーズを把握するよう努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要か見極めている。 ②対応できることについては柔軟に実行している。 ③すぐに対応できないことに対しては方策を検討している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	①利用者が安心してサービスを利用できるよう、相談受付段階から利用者の視点に立った支援を行っている。 ②利用者・家族等、双方の意向にそったサービス開始となるよう、十分に話し合いを行い、調整している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	①職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。 ②利用者には得意分野で力を発揮してもらおう等、利用者と職員が共同しながら生活している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①家族との情報交換を密に行う等により、これまでの介護経験やサービス利用中である現在についての家族の思いを把握している。 ②利用者の様子や、職員及び家族の思いや気づきを共有する等の取り組みにより、利用者を共に支える関係を作るよう努めている。		
26 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	①職員は、利用者と家族のこれまでの関係や、双方への思いを把握している。 ②家族との関係が途切れないよう、日々の利用者の様子を面会時や電話、手紙等で伝えたり、家族がホームに来やすいよう働きかけを行っている。		
27 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①利用者がこれまで関わってきた人やなじみの場所等を把握している。 ②知人等との電話や手紙での連絡を取り持つ等、必要に応じて、利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。		
28 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	①職員は、利用者同士が共に助け合い、支えあって暮らしていくことの大切さを理解している。 ②仲の良し悪し等、利用者の人間関係を把握している。		
29 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	①サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を利用者や家族等に示している。 ②必要に応じて、家族の相談に応じる等、これまで築いてきた利用者や家族との関係を継続するよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①職員は、利用者の思いや希望、意向を把握するよう努めている。 ②利用者の意向等が十分に把握できない場合は、利用者の視点に立って意向等把握するよう努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①利用者の生活歴やライフスタイル、個性、価値観を把握している。 ②これまでの地域との関わりや利用してきたサービスを把握している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	①利用者の1日の暮らし方や生活リズム（食事や、睡眠、排泄の時間、生活習慣、1日の中でどのような体調変化があるのか等）を把握している。 ②日々の生活等を通して、利用者のできること、わかる力を把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①介護計画作成時には、利用者がその人らしく暮らし続けることができるために、可能な限り利用者の意見を「聞くよう努めている。 ②介護計画は、全職員の意見や気づきを基に職員間で十分に話し合い、作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	①介護計画の実施期間を明示している。 ②実施期間終了後は見直しを行っている。 ③実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化や、利用者や家族等の希望の変化時には随時の見直しを行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等について具体的に記録している。 ②日々のケアの実施状況や職員の気づきを記録している。 ③記録の内容を全職員が共有することができる仕組みを整えている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	①必要に応じて、利用者や家族等、地域からのニーズに応じて、利用者等の生活の利便性を高めるための自主サービスの開発・実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	①地域の民生委員やボランティア団体等の存在を把握し、協力を呼びかけている。 ②利用者の意向に応じて、公民館や図書館等地域資源を活用できるよう働きかけを行っている。		
38 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	①必要に応じて、事業所以外のケアマネジャー等との連携を図り、行政独自で行っている理美容サービスや配食サービス等を利用できるよう支援している。		
39 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	①成年後見制度の利用の必要がある場合等、事業所内では解決できない困難事例がある場合には、地域包括支援センターと連携し、支援している。 ②利用者を長期的にケアしていくために、必要に応じて、地域包括支援センターと協力しながら、関係機関や民生委員等との協力体制の構築に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①これまでの受療状況を把握している。 ②利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。 ③定期的な受診のほか、体調変化や心配ごとのある時等には、いつでも医療機関に気軽に相談することができる。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	①認知症の専門医、あるいは認知症の人の医療に熱心で、利用者一人ひとりに応じた指示や助言をしてくれる医師を確保している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	①利用者の普段の状態や持病等を十分に把握して看護士の資格を持った職員を配置したり、訪問看護ステーションとの連携体制が整えられている。 ②24時間、いつでも気軽に相談することができる。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	①医療機関と利用者に関する情報交換や、状況に応じて早期退院に向けた話し合いを行う体制が整えられている。 ②退院に向けた支援体制について、家族も含めた話し合いを行う体制が整えられている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	①利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	①事業所として対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等について職員間で話し合いを行う体制が整えられている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①献立は、利用者の希望や好み、苦手なもの等に配慮している。 ②利用者の状況や意思等に応じて、調理の準備や後片付け等を促し、職員も一緒に行っている。 ③可能な限り、職員も利用者と一緒の席に着き、食事を摂っている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	①利用者の嗜好品を把握している。 ②入居者の状態に配慮しながら、嗜好品を暮らしの中に取り入れている。 ③嗜好品を取り入れる場合は、利用者の安全確保や他の利用者に迷惑がかからないよう十分配慮している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	①一人ひとりの排泄パターンを記録・把握している。 ②パターンに応じて事前誘導を行う等、自立に向けた支援を行っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	①利用者の入浴習慣や好みを把握する取り組みを行っている。 ②入浴日や時間帯、入浴方法等、利用者の意向を取り入れている。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	①外出や訪問者の有無等、その日の出来事や疲れ具合に応じて柔軟に休息を取り入れる。 ②一人ひとりの睡眠パターンを把握している。 ③眠れない利用者については原因を見極め、本来のリズムを取り入れている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①利用者の生活歴や希望、力量を把握している。 ②利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①職員は、利用者目らが金銭管理を行うことの重要性を理解している。 ②利用者の力量や希望等に配慮しながら、利用者自らが金銭管理を行えるよう支援している。 ③金銭管理を行っていない利用者でも、買い物時には支払いを行ってもらおう等の支援を行っている。		
58 ○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	①利用者の楽しみや気分転換につながるよう、日常的に外に出る機会を作っている。 ②外出先には利用者の希望や習慣を取り入れている。		
59 ○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	①利用者が行きたい場所を把握している。 ②利用者から行きたい場所の希望が出されない場合は、職員の働きかけにより話してもらえようとりくんでいる。		
60 ○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①利用者に来る電話や手紙を歓迎する等、利用者が家族や知人等に電話や手紙をしやすい雰囲気を行っている。 ②利用者が電話をかけたり手紙を出す場合には、その利用を支援している。		
61 ○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	①面会時間を設定している場合は、家族の都合に応じた柔軟な対応を行っている。 ②家族等の訪問時には声がけを行う等、過ごしやすい雰囲気作りを行っている。 ③入居者と家族が落ち着いて過ごせるような場所作りに配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
62 ○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①運営者及び全職員は、身体拘束の内容やその弊害について理解している。 ②身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	①利用者が自由に出入りできるようにし、外出傾向を察知した時には、職員が付き添うなどの支援を行っている。 ②やむを得ず施錠等を行う場合は、家族への説明を行い、同意を得ている。 ③無断外出時に備えて、近隣からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		
64 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	①昼夜共に、職員は利用者を見守りやすい場所に居て、利用者の様子を把握している。 ②事業所内の構造により利用者の様子が分かりにくい場合は、ソフト面での工夫を行っている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	①注意の必要な物品の保管場所や方法についてのマニュアルや手引き書を作成する等の具体的な取り決めがあり、それに基づいて実行している。 ②保管や管理方法に関する取り決めが利用者の状態に合わなくなった時には、再検討が行われている。		
66 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	①現在の利用者の状況に応じて、想定される事故を職員間で検討している。 ②ヒヤリハット報告書、事故報告書の様式が整備されている。 ③事故やヒヤリハット事例は全職員に周知されている。		
67 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	①夜間の対応も含めて、緊急時対応マニュアルが作成されている。 ②全職員が応急手当や救急救命の研修を受講している。 ③全職員が応急手当や救急救命の訓練を定期的に行っている。		
68 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	①日中だけでなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策が作成されている。 ②いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、職員と利用者が一緒に定期的な訓練を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	①利用者一人ひとりに起こりえるリスクを把握するとともに、その対策を家族に説明している。 ②起こり得るリスクや対応策について、利用者の状況変化等に応じて適宜の見直しを行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	①一人ひとりの持病やアレルギーの有無、留意事項を把握している。 ②利用者の異変の兆候があった場合には記録に残すとともに全職員で共有し、必要に応じて医療機関に相談する等の対応を行っている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①全職員が全利用者の薬の内容（目的・副作用・用法・用量等）を把握できるよう具体的な取り組みを行っている。 ②飲み忘れや誤薬等が無いよう支援体制を整備している。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	①職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解している。 ②便秘の原因を探るとともに、食材やメニューの工夫を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	①口腔内の手入れの必要性を全職員が理解している。 ②毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れ等を行っている。 ③一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①栄養バランスに配慮した献立となっている。 ②1日の早摂取カロリーを概ね把握している。 ③1日の水分摂取量を概ね把握している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	①感染症の予防・早期発見・対応マニュアルが作成されている。 ②マニュアルは必要に応じて見直しを行っている。 ③マニュアルや取り決め等は全職員に周知している。		
76 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	①台所や調理用具等の清潔を保つための具体的なマニュアルや手引書等を作成し、それに基づいて実行している。 ②マニュアルや取り決め等は全職員に周知されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	①訪問者や利用者の視点に立って、事業所に入りやすい雰囲気作りを行っている。		
78 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①調度品等、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮している。 ②職員がたてる物音や声は騒がしくない。 ③テレビや音楽等の音量は適切である。 ④陽射しや照明等、室内の明るさは適切である。		
79 ○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①教養空間に利用者が一人で過ごせる場所を確保している。 ②入居者同士で団欒できるスペースが確保できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
82	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>○建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人の性格を知り、馴染みの関係を築きつつ、本人が望んでいることや、昔、得意としていたことが、現在の生活に反映できるよう支援している。